

2007年8月3日

**スタンダードチャータード銀行、
インターン生・坪井祐二さんの自転車による北海道一周チャレンジ旅行を応援、
視力回復活動の募金活動を推進
“Seeing is Believing”~ Partnership Changes Lives**

このたび、スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、東京支店:東京都千代田区、CEO:マーク・デヴァダソン)は、当行がグローバルに展開している回復可能な視覚障害者を支援するためのプロジェクト“Seeing is Believing”の一環として、当行のサマーインターン、坪井祐二さん(早稲田大学4年生)と友人の勝田洋允さんが北海道1周(約2200キロ)を自転車で走破するチャレンジを応援することにいたしました。坪井さんたちが自転車の旅の行程500キロ達成ごとに一人当たり500円ずつ、すべての行程2200キロ走破を達成した場合に3000円(視力回復のための一人当たり手術代に相当)を行内にて募り、“Seeing is Believing”プロジェクトへの募金とするものです。

坪井祐二さん(1984年生まれ、北海道札幌市出身)は、当行でインターンとして働く中で、“Seeing is Believing”プロジェクトの趣旨に共感、自分がこのプロジェクトに対してできることとして、旅先で知り合った人たちに世界における視覚障害者たちの現状、そして当プロジェクトを知らせることにより、回復可能な視覚障害者たちへのサポートの意識の普及に努めるに至りました。「3000円あれば、一人の視力を取り戻すことができますが、途上国ではその資金を集めることが容易ではありません。わたしも募金で手助けをしたいと思います」とは坪井さんの弁。さらに、今回のチャレンジは、横浜育ちの坪井さんにとって、出身地である北海道をよりよく知ることも一つの目的となっています。“Seeing is Believing”の普及と自身のルーツの再確認を胸に、小学生以来の友人である勝田洋允さんと、2200キロに及ぶ自転車チャレンジ旅行に挑みます。

コーポレート・アフェアーズ部部長のクリストファー・ドミターは、次のように語ります。

「坪井さんが自らこの企画をたて、実行するに至ったことはすばらしいことです。彼のチャレンジが、行員のプロジェクトへの意識を高めています。私たちは、二人の旅程がうまくいくことと、行く先の地元の皆さんが応援して下さることを希望します」

坪井さんと勝田さんは8月6日(月)に東京・高田馬場をスタート。茨城・大洗から船で苫小牧に渡り、そこから時計回りに海岸沿いを4週間かけて、北海道2200キロ自転車で一周します。主な都市の通過日(予定)は以下です。

苫小牧	8月7日(火)	函館	8月8日(水)	札幌	8月13日(月)
稚内	8月16日(木)	紋別	8月18日(土)	羅臼	8月20日(月)
釧路	8月22日(水)	苫小牧	8月25日(土)		

* 坪井さん北海道自転車一周チャレンジの募金ウェブサイト: www.seeingisbelieving.org.uk/Yuji/

“Seeing is Believing”は、2003年に創立150周年を記念して、スタンダードチャータード銀行行員が中心となって回復可能な視覚障害の問題の意識を高め、募金を集めることを目的にグローバルな取り組みとしてスタート。開発途上国の100万人の視覚回復に必要な募金を集め、視覚障害の問題に取り組んでいるNGOをサポートしてまいりました。現在、2010年までに1000万USドルの募金を集め、20カ国において、視覚障害予防策、教育、そして視力回復にフォーカスし、1000万人の視覚障害者たちの生活をよりよく変えることを目指しています。

“Seeing is Believing”プロジェクト、また当プロジェクトへの募金にご関心のある方は、下記にお問い合わせください。

スタンダードチャータード銀行 東京支店 コーポレート・アフェアーズ部

● 森田 早智 Tel: 03-5511-1245

Sachi.Morita@jp.standardchartered.com

● 部長 クリストファー・ドミター Tel: 03-5511-1361

Christopher.Domitter@jp.standardchartered.com

スタンダードチャータード銀行- アジア・アフリカ・中東地域における先駆者

スタンダードチャータード銀行の最終持ち株会社であるスタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100 構成銘柄の上位 25 社にランキングされています。

スタンダードチャータード銀行は、創立以来 150 年以上の歴史を誇り、アジア太平洋地域・アフリカ・南アジア・中近東・欧州・英国・米州の世界 57 カ国で、店舗数 1,400 強(当行子会社・提携会社・ジョイントベンチャーを含む)の広範な地域拠点を網羅するグローバル・ネットワークを駆使し、世界で急成長を遂げる数多くの新興成長市場において、事業展開を行っています。

世界有数の国際銀行として、全世界で 100 以上の国籍のよって構成される 60,000 人余の行員 60,000 名余を擁しています。この多様性は、私どもが持つ企業価値の真髄をなすものであり、また、世界がひとつの市場として統合されつつある現在、当行の企業成長を支えています。

スタンダードチャータード銀行は、その戦略的買収・提携、安定した財政基盤、多岐多様にわたる事業分野・金融商品・地域性、そして当行行員に支えられた堅調なオーガニック成長(買収等を含まない事業自体からの収益成長)により、アジア・アフリカ・中近東地域の急成長を続ける新興市場において、当行の優位性を確保しております。

スタンダードチャータード銀行の総収益 9 割強がアジア・アフリカ・中近東地域から計上されるものです。当行は、世界各国で、個人および法人向けサービスに特化したコンシューマーバンキング部門・ホールセールバンキング部門による両面での業務展開を行っていることから、顧客の皆様には、グローバルな視点に立ち、かつ各地域で培った高い知識・ノウハウを駆使して、広範で革新的な金融商品・サービス、また、数々の賞に輝く、実力に裏づけされたファイナンシャル・ソリューションを提供しております。

スタンダードチャータード銀行は、当行グループで一律に適用される企業統治(コーポレートガバナンス)および企業責任(コーポレートリスポンシビリティ)に基づき、地域社会との一体性・環境保護・望ましいコーポレートガバナンスを図り、長期的なスタンスに立ち、確実に、サステナビリティ(持続的成長)のある事業構築を行っています。

2006 年 The Banker(ザ・バンカー)賞において、スタンダードチャータード銀行は「最優秀世界銀行賞(グローバル・バンク・オブ・ザ・イヤー)」をはじめ、アジア太平洋とアフリカの主要 2 地域において「地域最優秀銀行賞」、6 カ国での「最優秀銀行賞」、および「最優秀 CSR(企業の社会的責任)賞」を受賞しました。

日本におけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての出張所を開設した 1880 年にさかのぼり、127 年に及びます。日本において、東京支店(山王パークタワー)と丸の内支店(いずれも千代田区)があり、現在約 250 人を擁しています。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カストディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供、そして個人のお客様にはプライオリティバンキングサービスを提供しながら成長を続けています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト (日本語): www.standardchartered.co.jp
(英語): www.standardchartered.co.jp/index_english.html

“Seeing is Believing”についてのウェブサイト (英語): www.standardchartered.com/sustainability/community_seeing.html